

月刊

軽音楽部

発行：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
配布：全国2,040校の高等学校軽音楽部



令和6年度 第8回 高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会

令和6年7月31日（水）舞鶴市総合文化会館 大ホール 主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 公益財団法人がけはし芸術文化振興財団 共催：舞鶴市
後援：文化庁 舞鶴市教育委員会 京都府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会



写真は第8回 高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会でグランプリを受賞した大阪府立旭高等学校のCRASPEDIAです

2024

9

VOL.78

次号は9月25日発行

部活動で得られるかけがえのないもの 加藤彰教

林西寺（真宗大谷派）住職

軽音楽部の新しい大会の役割を考える 三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

イメージを共有し演奏で表現する 中川 真

大阪府立旭高等学校 軽音楽部 顧問

地元に着した合同演奏会を目指して

音楽の基本である『音』を学ぶ「音学教室」を開催

専門性に不安のある先生の指導法／軽音楽部にもマネジメントの発想を…

アンサンブルが良くなる指導方法／軽音協イベント・カレンダー



月刊 軽音楽部
バックナンバー



軽音楽部員必見
デジタル版記事

第2回 全国高等学校軽音楽部

オリジナルソング グランプリ



詳しくはこちら

バンド

弾き語り

DTM

GarageBand

インスト（歌なし）

校歌作曲

全国の小中高等学校の 軽音楽部を支援する協会

現在、全国の高等学校では軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部が学校教育の一環として、「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション（意思伝達）」「クリエイティビティ（創造力）」「チームワーク（協働）」「エンターテインメント（顧客満足）」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動であると認知されてきたからだと思います。私たちは、情報誌の発行、大会や合同演奏会の開催、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

Mission ～理念～

軽音楽部の諸活動を通して若い人材を育てる

Vision ～目標～

1 軽音楽部の学校内外における認知向上を図る
部活動としての歴史が浅い軽音楽部は、偏見もあり一般的に正しい認知が低いのが現状です。軽音楽を通じた部活動の有意義さを学校内外へ広めていきます

2 社会や地域貢献を視野に入れた部活動の提案
軽音楽部の活動範囲は、日々の練習や演奏会出演、大会への参加だけにとどまらず、地域や行政とのつながりを生みます。軽音楽部の活動を通じた社会貢献を応援します

3 生徒による自主、自律した部活動運営の支援
グローバルな視点からの上位下達ではなく自主的に動ける人間、これからの日本社会が必要とする自律した人間育成を目的とした部活動運営の支援をします

ご支援いただいている特別賛助会員の皆様（敬称略／順不同）

株式会社ミュージックネットワーク	名古屋スクールオブミュージック＆ダンス専門学校
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	ギブソン・ブランド・ジャパン株式会社
一般社団法人サトヤマカイギ	フェンダーミュージック株式会社
大阪音楽大学	有限会社エムエージー
名古屋芸術大学	株式会社トップトラベルサービス
宝塚大学	株式会社福々家（モアリゾート、ホテル寺尾温泉）
日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校	株式会社サウンドハウス
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	音楽ロッヂ ゆうげん荘
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



月刊 軽音楽部 部活動としての軽音楽を考える

令和 6 年 9 月号 VOL.78

■月刊 軽音楽部 VOL.78 ■創刊：平成 25 年 12 月 18 日（水）■新創刊：令和 6 年 3 月 25 日（月）■発行：令和 6 年 8 月 27 日（火）／第 13 巻 9 号通巻 78 号
■監修・発行／特定非営利活動法人（NPO 法人）全国学校軽音楽部協会 JASLMC（Japan Association of School Light Music Club）
〒224-0003 横浜市中区中川中央 1-37-6-405 TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900 E-Mail：info@keionkyo.org
■企画・編集／株式会社ミュージックネットワーク

interview



部活動を考える

部活動から得た経験が卒業後も生きる.....4

林西寺（真宗大谷派）住職

加藤彰教



部活動を考える

軽音楽部の新しい大会の在り方を考える.....6

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之



優勝校顧問に聞く

イメージを共有し演奏で表現する.....12

大阪府立旭高等学校 軽音楽部 顧問

中川 真

report

地元に着着した合同演奏会を目指して.....14

音楽の基本である『音』を学ぶ「音学教室」を開催.....16

contents

専門性に不安のある先生の指導法②.....17

軽音楽部にもマネジメントの発想を...③.....18

アンサンブルが良くなる指導方法⑥.....20

軽音協イベント・カレンダー.....21

音楽／エンタメ業界の仕事 2024

レコーディングの仕事
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー.....22

From Chief-In-Editor

文化部としての軽音楽部

夏の軽音楽コンテストの開催を終えて、いろいろと考えることがありました。開会の挨拶で必ず述べていることですが、音楽や芸術に優劣をつけることは難しく、一方で、教育的観点から自分の実力レベルを測るという意味で、順位をつけることの意義は理解しているつもりです。そういう意味で、文化部が「勝利至上主義」に走ることはナンセンスだと思うのですが、せっかくなら、同じコンテストを開催するなら、日頃から自分たちの練習の成果を見せ合い、お互いに認め、相手から学ぶという姿勢...文化的な姿勢が感じられると嬉しいです。

そのためには、生徒を指導する大人の意識を変えていく必要があるのかもしれませんが。バンド演奏の優劣から離れて、我々は文化部であるということを意識した大会やコンテストの在り方を考えるのが、次世代の軽音楽部ではないか、と考える今日この頃です。当協会の活動理念として「軽音楽部の諸活動を通して、青少年を育成する」というものがあります。好きな音楽やバンド活動を通して、自分自身の能力の幅を広げ、高め、人間的に成長することが我々の活動理念であります。

この時期に、そういう考えに至った 1 つの大きな理由は、初めての「国際大会」の開催です。当協会が主催する「ブロック

大会」のグランプリ受賞バンドに加え、オリジナルソング・グランプリの優秀賞受賞バンド、さらに中国からバンドコンテストのグランプリと準グランプリの受賞バンドを招聘し、「音楽の文化祭」というコンセプトで開催しました。予想通り、各バンドの演奏は優劣をつけがたく、またつける必要もなく、お互いの楽曲や演奏を讃え、文化交流、人的交流を生み出したのではないかと思います。中国のバンドメンバーとは言葉が通じないものの、スマホの翻訳ソフトを介して、コミュニケーションを取り合う高校生を目の当たりにして、「軽音楽文化祭」と冠したことが正しかったと痛感しました。

それでは、また次号でお会いしましょう。



三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

Email mitani@keionkyo.org
Facebook yoshiyuki.mitani
Instagram mitani.yoshiyuki
X (Twitter) @mitaniyoshiyuki

部活動を考える

部活動から得た経験が
卒業後も活きる

加藤彰教

林西寺（真宗大谷派）住職

部活動に励み、音楽を通じてメッセージを届ける高校生を応援するべく、発表の場を提供

一般社団法人サトヤマカイギが主催する「白山サトヤマカイギ奉納祭」にて、当協会では、次世代を担う若者（高校生）と地元（白峰）の人々をつなぐべく、今夏も「軽音楽部合同演奏会」を開催しました。そこで、今回は白山開山・泰澄大師開基の寺院であり、1300年の歴史を持つ石川県の最古刹、林西寺の加藤彰教住職に演奏会への期待や部活動への思い、顧問の先生方へのメッセージなどを伺いました。

●昨年に引き続き、今夏も本堂で演奏会を開催させていただきましたが、いかがでしたか？

加藤…昨年も感じたのですが、とても楽しそうに、キラキラとした目で、生き生きと演奏していた姿が印象に残っています。笑顔で挨拶してくれたのも嬉しかったです。本堂での軽音楽の演奏会を承諾させていただいた理由の一つとして、コロナ禍で演奏を披露する場所や機会を失っている高校生に何かしらの応援ができれば…という思いがありました。

白峰は山深い地域なので、まだ村の私たちは軽音楽の演奏に馴染みがなかったり、制服を着た高校生が楽器を演奏している…という初めての光景に驚くかもしれないのですが、子どもたちから保護者の皆さん、おじいちゃんやおばあちゃんまで、たくさんの方々が今夏も演奏を見に来てくれました。そういった場所を提供できたことを嬉しく思いますし、ぜひ次回は白山を囲む、石川県・富山県・福井県・岐阜県の高校生が集まってくれるのを期待しています。若さ溢れる高校生が白峰に来ていただけるだけで、地元の人々はたくさんパワーをいただけるので、今回の開催も楽しみです。

●会場の打診を受けた際と演奏会の開催後で、印象などの変化はありましたか？

加藤…まだ2年目の開催なので、お寺での軽音楽の演奏会が珍しい光景に映る方もいらつしやると思いますが、本堂のご本尊からいただく「力」と、軽音楽に励む高校生たちの「力」を感じることがで

きるという点では、私はお寺での開催に違和感はありません。今年も高校生の皆さんから「ここ（ご本尊の前）で演奏しても良いんですか!？」という驚きの声をいただきました（笑）。日頃の練習の成果を発揮したり、ご本尊からパワーをいただくという「力」の部分では、両者に通じるところがあるのではないかと考えています。

●学生時代の部活動歴を教えてください

加藤…私の部活動歴ですが、中学校では、陸上とスキーのクロスカントリリーに励んでいたのですが、高校に入ってから陸上ではなく、登山部に所属していました。白山や白馬をはじめとするいろいろな山々を登りましたが、登山部の活動のない日が退屈だったので、生物部にも入っていました（笑）。

大学に進学後はラグビーの同好会に所属していたほか、部活動としては茶道部に入りました。京都の大学に通っていたので、「何か京都らしい体験ができないかな…」と考

えていたところ、大学の先輩が茶道部にいらつしやり、「週に二度、裏千家の家元のところへ稽古に行ける」ということを聞き、「これは、ここじゃないとできないチャンスだ!」と思い、茶道部へ入部することにしました。

茶道とラグビーでは、まさに「静」と「動」という感じがしますが、ある時にラグビーの試合で肩を脱臼してしまい、茶道部でお茶を立てられない時期があり、先輩から怒られたこともありましたが（笑）。ちなみに、楽器や音楽は素人で、楽譜もまったく読めませんが、いろいろな音楽を聴いたり、演奏を見たりするのは大好きです。

●大学時代も含め、学生生活や部活動から得たもので、社会に出てからも活用できていることを教えてください

加藤…いろいろなことを学生生活や部活動から学びましたが、わかりやすいところでは、茶道部での経験を活かすことができたのは何度もあります。お茶をいただく機会をはじめ、大勢の人たちの前で話をする際やお土産などをいただいた際など

に、茶道部で培った作法の一つ一つがサツと自然に出てきますし、物怖じもしなくなりました。登山においても、天候や持ち物などの知識や経験があるので、子どもたちが山へ向かう際も「今日は大丈夫だな…」とか「今回は止めておいたら？」というアドバイスすることもあります。

また、高校・大学を通じてですが、当

時の友人たちとは、今でも交流が続いています。個人的な話になりますが、5年に一度のペースで同窓会が開催されており、それもクラス単位ではなく、学年全体が対象なんです。私の代は、1学年に440名が在籍していたのですが、440人に声をかけると100数十人が参加するので、ホテルの大広間のようなスペース

じゃないと開催できません（笑）。そういった機会もあり、交友関係が今でも続いているほか、部活動や学生生活にも同じことが言えると思います。高校や大学で築いた「つながり」は一生続いていくものなので、ぜひ大切にして欲しいですし、特に部活動は先輩もいるし、後輩を持つこともできます。部活動で得た様々な経験や知識はもちろん、コミュニケーションやチームワークのスキルは大人になって、社会に出てからも絶対に役に立つので、ぜひ日々の活動を大切にして欲しいと思います。

●現代を生きる私たちは日進月歩で進化する科学技術と、どのように向き合えば良いとお考えですか？

加藤…世の中が、ものすごいスピードで進化しています。もちろん時代が異なりますが、私が中学生の頃と、現代の中学生が置かれた環境では、まったく様子が違いますし、タブレット端末で授業を受けることなど、想像もつきませんでした。インターネットやSNSの発展に伴い、世界中の人たちとリアルタイムでつながれるようにもなっています。私は、それらの技術やサービスを上手に使いこなすことが大切であり、自分の頭で考えるプロセスをなくしてはいけないと思います。

少し宗教的な話をすると、現代では「自分は何者なのか?」「何がしたいのか?」というのが問われるようになり、考えなくてはいけなくなつたと感じています。宗教の「宗」の字には「中心」という意味があるように、現代を生き抜く中で「自分のアイデンティティは何か?」というこ

とが、社会が変化するスピードに流されてしまい、蔑ろになつていないのではないのでしょうか。白山に登山をされたり、白峰を訪れる方の中には「自分探しの旅」や自分のルーツを探る活動をしている人たちが少なくありません。生きていく上での「柱」がないまま、社会がどんどん進歩してしまい、その波に流されて…とならぬよう、自分が本当にやりたいことや好きなことを追求して欲しいと思います。

●生徒指導にあたる顧問の先生方にメッセージをお願いします

加藤…私の経験をお話すると、中学生や高校生の頃に先生から聞いた「言葉」が今でも残っていますし、折に触れて思い出することがあります。「先生」と「生徒」という関係ではありますが、世の中がどんどん進化して、便利になろうとも、先生がかけてくれた言葉や一緒に喜んでくれた経験、怒られた記憶や悔しい思いなどは、生徒一人ひとりが成長する上での「糧」となり、生きていく上で壁にぶつかったり、迷ってしまった時にバツと蘇るものです。「教員の働き方改革」が叫ばれ、部活動の在り方や中学校における「部活動の地域移行」が話題になることが増えていますが、いづれにせよ、一生懸命に取り組んだ経験や先生からいただいた言葉というのは、必ず生徒たちの心の支えになります。いろいろとご苦労が多く、大変だと思いますが、これからも生徒たちが成長する場を支えていただきたいと思います。

インタビュー・三谷佳之



令和6年度 第5回 高等学校軽音楽コンテスト関東大会

令和6年8月25日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール
主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会／公益財団法人かけはし芸術文化振興財団
後援：文化庁 特別協賛：日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校／専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー／ギブソン・ブランド・ジャパン株式会社



結果報告	
グランプリ	中央大学杉並高等学校 / ヨジショウ
準グランプリ	法政大学高等学校 / Fuzzy nova
第3位	東海大学付属浦安高等学校 / TOP BaNaNa
奨励賞	神奈川県立市ヶ尾高等学校 / AM 4:25
奨励賞	神奈川県立藤沢総合高等学校 / good afternoon
奨励賞	神奈川県立藤沢総合高等学校 / UPs WINGS
千葉経済大学附属高等学校 / meteor	
中央大学杉並高等学校 / affectea	
東京都立鷺宮高等学校 / 不眠事情	
栃木県立佐野高等学校 / identify	
法政大学高等学校 / Papilio	
茂原北陵高等学校 / ジャストリブート	
日本大学明誠高等学校 / 海底都市	
高崎商科大学附属高等学校 / Sense of wonder	
神奈川県立上鶴間高等学校 / como'C	
埼玉県立豊岡高等学校 / 溺愛メランコリック	
栃木県立足利南高等学校 / Plum berry	
常磐高等学校 / ぽーかこのメロウ	
本庄東高等学校 / VERTEX	
茨城キリスト教学園高等学校 / 寿司	
茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 / E□ Synsesis	
東京学館船橋高等学校 / Riots for peace	
東京都立文京高等学校 / PENTAGON	
西武学園文理高等学校 / Marky's crow	
相模女子大学中学部・高等部 / coconuts	

次回：令和7年3月25日(火)開催
国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール

部活動を考える

軽音楽部の新しい大会の 在り方を考える

三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

競わないコンテストを目指して……。芸術文化活動の1つである「軽音楽」におけるコンテストの意義とは

公式大会／民間大会を問わず、部活動としての軽音楽部を対象にしたコンテストが全国各地で開催されており、その数はコロナ禍をキッカケに増えた感がありますが、「音楽」は芸術文化活動の1つであり、本来は点数がつけられるものではありません。しかし、日頃の目標に見据え、励みにするためには「順位づけ」が必要であることにも理あります。そこで、「高等学校軽音楽コンテスト関東大会／中部大会／近畿北陸大会」という都府県の枠を越えたブロック大会を主催している当協会の理事長に伺いました。

お互いに讃える文化交流の場

「芸術文化活動」の1つである音楽、とりわけ「軽音楽部」のライブ演奏に優秀、または点数をつけるという部分に違和感がありつつ、「部活動としての目標（機会）を生徒たちに与える」という大義のもと、今夏もコンテストの時期を迎えました。マズローの欲求5段階説に従えば、「順

列を決める」ということは、欲求説の4番目：「承認欲求」ではないかと考えています。そもそも音楽や芸術というのは、その一段上の「自己実現欲求」に値するのではないかと考えると、仲間とともに楽曲を作り上げ、それを聴衆の前で披露し、聴いている人たちに感動を与える：という軽音楽部の活動に優秀をつけることはナンセンスではないでしょうか。

そういう意味で、お互いに競うことに重点を置かず、お互いを讃え合い、評価しあい、そして、交流するという文化活動の一環としての他流試合ならぬ、いわば「異文化交流」を目指すべきではないかと常々考えています。音楽や芸術に「上下」はなく、そもそも「好きか、嫌いかなのです。いかに高校生の人格形成や教養を深める一助になるか、世間一般の方々現在の軽音楽部の様子を見ていただけたかを考え、取り組んでいます。

他者の演奏から教養を高める

軽音楽文化祭 国際大会の開催

今夏の軽音楽コンテストに関しては、新しい試みとして、各ブロック大会のグランプリ受賞校を招いて、「高等学校軽音楽文化祭 国際大会」を開催しました。この大会では優秀をつけず、「文化交流」という面を意識していたので、大会名も

「高等学校軽音楽文化祭 国際大会」と命名しました。この名前に込められた「競わない大会」のコンセプトが、これからも継続的に発展していくことに期待しています。各大会の様子は後続のページをご覧ください。



令和6年度
第8回 高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会

令和6年7月31日（水）舞鶴市総合文化会館 大ホール
主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会／公益財団法人かけはし芸術文化振興財団 共催：舞鶴市
後援：文化庁・舞鶴市教育委員会・京都府教育委員会・兵庫県教育委員会・和歌山県教育委員会・滋賀県教育委員会



結果報告	
グランプリ	大阪府立旭高等学校／CRASPEDIA
準グランプリ	滋賀県立大津高等学校／Beat/Music
第3位	兵庫県立東播工業高等学校／RoughS
舞鶴市長賞	大阪府立槻の木高等学校／今日も、雨。
奨励賞	大谷高等学校／真夜中のMorning call
奨励賞	大谷高等学校／華奢 club
奨励賞	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校 ／Major piece
京都市立紫野高等学校／Mr. Fanatix	
滋賀県立大津高等学校／know weather	
四條畷学園高等学校／makka	
兵庫県立兵庫高等学校／preoccupy+	
京都府立嵯峨野高等学校／Soleil	
和歌山県立海南高等学校／Sunrise	
兵庫県立小野高等学校／ぼこぼん	
京都府立峰山高等学校／Fanfare	
大阪府立鶴見商業高等学校／blue hawaii	
三田学園高等学校／INSOMNIA	
兵庫県立小野高等学校／Edge of dimension	
兵庫県立三木高等学校／プリムラ（欠場）	
京都府立山城高等学校／ギムザ	
次回：令和7年3月29日（土）開催 宇治市文化センター 大ホール	

令和6年度
第10回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会

令和6年8月3日（土）愛三文化会館 もちのきホール 主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会／公益財団法人かけはし芸術文化振興財団
後援：文化庁・愛知県高等学校文化連盟／愛知県教育委員会／岐阜県教育委員会／静岡県教育委員会／三重県教育委員会／石川県教育委員会／富山県教育委員会／福井県教育委員会／名古屋市教育局 特別協賛：専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー



結果報告	
グランプリ	名古屋経済大学市邨高等学校／春告鳥
準グランプリ	三重県立津西高等学校／ばうんでい裁判所
第3位	金城学院高等学校／白壁ガールズ
奨励賞	東海学園高等学校／2LDK
奨励賞	岐阜県立斐太高等学校／3 パース
奨励賞	名古屋市立名東高等学校／ふじの花に浮いて．
愛知県立瑞陵高等学校／Nora	
富山県立富山工業高等学校／REXX	
浜松修学舎高等学校／少女の皮を被った化物	
石川県立羽咋高等学校／Cosmic	
浜松学芸中学校・高等学校／ROCKPEACE®	
石川県立羽咋高等学校／Amily	
愛知県立旭丘高等学校／SECRET:END	
福井工業大学附属福井高等学校／Mixture	
名古屋市立名東高等学校／aikyuukuu	
岐阜県立斐太高等学校／あろえなじー．	
東海学園高等学校／クアッカワラビー	
愛知県立旭野高等学校／Bee box	
三重県立津西高等学校／せみとしみ	
福井県立若狭高等学校／リトルマシンガン	
次回：令和7年3月31日（月）開催 名古屋文理大学文化フォーラム（稲沢市民会館）	

2019年の第1回大会より、今夏で「10回目」という節目を迎えた「高等学校軽音楽コンテスト中部大会」。昨年度に引き続き、愛知県大府市にある、愛三文化会館のもちのきホールで開催しました。当日は、予選の動画審査を通過した15校／20バンドが出場。愛知県をはじめ、岐阜県、静岡県、三重県、石川県、富山県、福井県の代表バンドが日頃の練習の成果を存分に発揮しました。

開会にあたり、主催者を代表して当協会の三谷理事長が開会式に登壇。「東海地方や中部地方、北陸地方の高等学校軽音楽部の目標になるようなコンテストを作ろう！ということから始めた高等学校軽音楽コンテスト中部大会も、今回で第10回目の開催を迎えることができました。今日はコンテストなので、順位はつきませんが、結果に「喜」ませず、これからも頑張ってください。そして、各地の高校生バンドの演奏を聴くことができる場ですので、いろいろなバンド

から学び、たくさんのことを吸収してもらいたいと思います」と述べました。

審査員やコメンテーターが紹介されると、早速、1バンド目の愛知県立瑞陵高等学校の「Nora」の演奏からスタート。演奏後は、審査員から「オリジナル曲の披露でしたが、構成がとてもわかりやすく、馴染みやすい楽曲で楽しめました。ギターやベースのバランスを考えた音作りや各セクションの入口をしっかりと合わせるなど、『バンド力』が上がると、さらに良くなると思いますので、これからも頑張ってください」という講評や今後に向けたアドバイスが送られました。

厳正な審査のもと、今夏は名古屋経済大学市邨高等学校の「春告鳥」がグランプリを受賞。閉会式での総評では、審査員が「今日は、いろいろなバンドの演奏を聴いたと思うので、（出場した）自分たちのことを激励しつつ、他校の良いところを取り入れて、明日からの活動に励んでください」と述べ、大会を締めくくりました。

高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会は、昨年度から夏と春の年2回の実施となり、春は宇治市（京都府）にて、夏は同じく京都府の舞鶴市で開催しています。2019年から舞鶴市との共催でスタートした夏の大会ですが、今年度で8回目（舞鶴市では6回目）となりました。今夏も京都府をはじめ、大阪府、兵庫県、和歌山県、滋賀県から予選の動画審査を通過した17校／20バンドが出場し、応援の軽音楽部員や保護者、舞鶴市民の方々など、たくさんの方の観客の前で、どのバンドも日頃の練習の成果を発揮しました。

開会に先立ち、主催者を代表して、当協会の三谷理事長が登壇。「音楽は本来、優劣を付けるものではありませんが、今日は存分にステージで演奏してください。そして、軽音楽部での活動を通して、コミュニケーション、チームワーク、クリエイティビティを学び、大会を目指して頑張ってきたことは、社会に出た時に、

きっと皆さんの役に立つことでしょう」と、部活動の意義を述べました。

続いて、舞鶴市の鴨田市長からも歓迎の挨拶をいただき、「舞鶴市は豊かな自然に恵まれた美しいまちです。舞鶴湾のリアス式海岸をはじめ、赤れんがパークや五老ヶ岳公園の展望タワー、豊かな海産物など、魅力がいっぱいです。ぜひ大会後は時間の許す限り、舞鶴の魅力にたくさん触れていただきたいと思います。そして、今日は日頃の練習の成果を遺憾なく発揮され、本大会が実りあるものになることを期待しています」と、大会の発展と出場者へのエールを送られました。

近畿北陸大会をはじめ、中部大会や関東大会などの「ブロック大会」では、普段交流がない学校の演奏を聴いたり、府県の特徴の違いを感じることが出来ます。出場した生徒たちは他校の演奏や審査員のアドバイスを耳を傾け、各校の演奏後に盛大な拍手を送りました。

国際大会／レセプション



▲一緒に写真を撮って、交流を深めました



▲中国のバンドメンバーともアプリで会話



▲交流会を実施。とても盛り上がりました

国際大会の前日（21日）、出演校を招いた「歓迎交流会」を行いました。会の冒頭、当協会の三谷理事長と「Band China 青少年音楽祭」のCEOである林健翔氏の対談を実施。Band Chinaの全国審査員である、ギ

タリストの小林信一氏によるゲスト演奏も行われました。その後の交流会では、乾杯を経て、各地の出演バンドのメンバーを中心に和気藹々と話をしたり、一緒に写真を撮るなどして交流を深めました。



▲ギタリスト小林信一氏によるゲスト演奏



▲市長より歓迎のご挨拶をいただきました



▲舞鶴市の鴨田市長とも交流ができました

全国学校軽音楽部協会 x Band China 代表対談



●「第1回 高等学校軽音楽文化祭国際大会」への出演をありがとうございます。はじめに、Band Chinaについて教えてください。

林：Band China 青少年音楽祭は、中国最大規模の青少年バンドコンテストです。中国、ドイツ、日本、シンガポールなどから多くの学生が参加し、年間30回以上のコンテストと公演が開催されています。これまでに数万人の若者がステージに立つ夢を実現してきました。

2023年には「黒豹」というバンドと一緒に「無地自容」を歌い、コーラスの人数でギネス世界記録を樹立しました。音楽祭では、若者に音楽への興味を持たせ、創作や交流、公演を通じて才能を発掘し、現代音楽

●中国における音楽や楽器市場は、どのような感じですか？

林：中国では、日本の学校のような「部活動」という仕組みはないのですが、もう何年も小学生や中学生の習い事としての「楽器演奏」がブームになっています。電子ピアノや電子ドラムをはじめとする電子楽器の普及もあり、都市部を中心に自宅での楽器演奏が身近になりました。Band Chinaを通じて、今後子どもたちの発表の機会を作っていきたいと考えています。

●今回出演するのは、どんなバンドですか？

林：今回は、中国から2つのバンドを日本に連れてくることができ、とても嬉しいです。天気予爆は、今夏のBand Chinaでグランプリを受賞した実力派のバンドで、SUNはBand Chinaの「11歳〜15歳」の部門で、同じくグランプリを獲得しました。それぞれジャンルは異なりますが、どちらも聴きごたえのあるバンドだと思います。どちらのバンドも子どもたちが中国の楽器店で知り合い、仲良くなったことがきっかけで結成されたバンドです。

令和6年度 第1回 高等学校軽音楽文化祭 国際大会

令和6年8月22日（木）舞鶴市総合文化会館 大ホール

主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会／公益財団法人かけはし芸術文化振興財団 共催：舞鶴市

協力：舞鶴ミュージックコミッション 後援：舞鶴市教育委員会・京都府教育委員会

令和6年度 第1回 高等学校軽音楽文化祭国際大会

令和6年8月22日（木）舞鶴市総合文化会館 大ホール 主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会／公益財団法人かけはし芸術文化振興財団 共催：舞鶴市 協力：舞鶴ミュージックコミッション 後援：舞鶴市教育委員会・京都府教育委員会



当協会では「高等学校軽音楽コンテスト 関東大会／中部大会／近畿北陸大会」を年2回のペースで開催していますが、新たな取り組みとして「高等学校軽音楽文化祭 国際大会」を立ち上げました。各大会の入賞校を中心に、海外からも軽音楽活動に励んでいるティーンを招き、国や地域、学校や部活動の紹介（プレゼンテーション）を含め、軽音楽による文化交流を図ることを目的としています。

第1回大会では、中国のコンテストである「Band China 青少年音楽祭」のグランプリと準グランプリのバンドが来日。日本からは先のブロック大会のグランプリ校をはじめ、「第1回 全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ」の優秀校や開催地である京都府舞鶴市の代表校、元日に発災した「令和6年能登半島地震」の復興応援として、石川県金沢市の高等学校軽音楽部が出演しました。

開会にあたり、主催者を代表して当協会の三谷理事長が開会式に登壇。「今日は各大会のグランプリ受賞校や国の代表として選ばれた素晴らしいバンドが集まりました。音楽や芸術に優秀はありません。音楽や芸術は無から有を生む創作活動であり、他を認める多様性であり、人々に感動を与え、豊かな時間を楽しむことができる、人類の最も優れた発明の一つと言えます。未来を担う若い彼らのポジティブなエネルギーに借しめない拍手と歓声をお願いします」と述べました。

同じく主催の公益財団法人かけはし芸術文化振興財団の山東昭子理事長をはじめ、共催の舞鶴市より、鴨田秋津市長も

出演校／バンド

神奈川県立相模原高等学校／せんとらる（第4回 関東大会／グランプリ）
名古屋経済大学市邨高等学校／春告鳥（第10回 中部大会／グランプリ）
大阪府立旭高等学校／CRASPEDIA（第8回 近畿北陸大会／グランプリ）
茂原北陵高等学校／ジャストリブート（第1回 オリジナルソング・グランプリ／バンド部門 優秀賞）
日星高等学校／文珠（開催地（舞鶴市）出演）
金沢学院大学附属高等学校／パッションネ（令和6年能登半島地震／復興応援）
Band China 青少年音楽祭／天気予爆（中国）
Band China 青少年音楽祭／SUN（中国）

開会の挨拶を述べたほか、Band ChinaのCEOである林健翔氏も登壇し、第1回大会の開催に向けたメッセージをいただきました。

どのバンドも、演奏前にプレゼンテーションを実施（中国のバンドはインタビュー）。写真やスライドを用いながら、自校や部活動、地域のことを紹介しました。その後の演奏では、どのバンドも素晴らしい演奏を披露し、8バンドの出演があつという間に感じる会でした。

今回の国際大会では、今回の実績をもとに中国をはじめ、世界各国に協力を要請し、さらなる盛り上げに期待しています。

優勝校顧問に聞く

積極的なライブの開催と、挨拶・礼儀・学校生活を大切にしたい部活動を目指して…

イメージを共有し
演奏で表現する

中川 真

大阪府立旭高等学校 軽音楽部 顧問

●「第8回 高等学校軽音楽コンテスト 近畿北陸大会」でのグランプリ受賞、おめでとうございます。受賞した「CRASPEDIA」は、どんなバンドですか？

中川：CRASPEDIAは、ちょうど2年目：2022年の9月7日に結成されたバンドです。バンド名は実在する花の名前で、「心の扉を叩く」という意味の花言葉があります。そんな花言葉のとおり、聴いてくれる人たちの心の扉を叩けるように…という願いを込めて、バンド名につけたと聞いています。

顧問の私から見ても、非常にクリエイティブでチームワークに長けているバンドだと感じています。作曲はキーボードとボーカルが基本的な部分を組み立てて、そこから先は全員でアイデアを出し合いながら編曲し、オリジナル曲に仕上がっています。メンバーは結成当初から変わらず、3年間活動を続けてきました。

コピー曲を演奏するにしても、ただ曲をコピーして演奏するのではなく、「どう

いう気持ちで客席に届けるのか？」歌詞に込められた想いは何か？」など、イメージの共有に関するミーティングを頻繁に行いながら、それをバンドの中に落とし込んでいきました。今回の近畿北陸大会でグランプリをいただけたのは、何度も自分たちで考えてきた楽曲のイメージをうまく演奏に乗せることができ、ステージで表現することができたからかな…と感じています。グランプリ受賞後は、たくさんの方から祝福のお言葉をいただきました。

●現任校への着任時期や軽音楽部の顧問歴は…

中川：私は旭高校に赴任して、今年で3年目になります。軽音楽部の顧問歴としては、今年で9年目です。楽器の経験は、学生時代に少しギターを弾いていたくらいで、メインはボーカルやギター&ボーカルをやっていました。

●部員数やバンド数、部費などは…

中川：現在の部員数は1年生、2年生を

イブを、3月には卒業する3年生を迎えた卒業ライブを行い、3年生と下級生と一緒にライブを行うなど、毎月から隔月のペースでライブやイベントを開催したり、他校さんとの交流を深めています。

●機材や環境は恵まれていますか？

中川：普段は、音楽室（または視聴覚室）をメインで使わせていただいているほか、空いている普通教室を4部屋〜5部屋ほどお借りして、パートごとに練習をする日もあります。ただ、タイミングによってはクラスの活動や面談等で教室が使えない日もあるので、活動場所の確保が今後の課題の1つです。

機材は一通りのものが揃っており、十分に校内ライブを開催することができます。照明機材は1年ほど前から少しずつ本格的なものを揃え始めました。アンプに関しては、標準機材の1つである「C120」を使うようにならないとあかん…」ということで、使用頻度の高いものから揃えているところです。

●部活動を運営する際の方針や目指しているものは…

中川：本校では、節目のタイミングで「総会」という名のミーティングを行っていきます。そこで、私がいつも話していることは「①挨拶をしつかりと行う」「②感謝の心を大切に」「③見ている人に楽しんでもらえる演奏をする」という、3つの方針です。特に演奏に関しては、演者だけで成り立つものではなく、演奏を聴いてくれるお客さんをはじめ、音響さん

や照明さん、ステージのスタッフさんなど、周りの方々がいるからこそ、できるものです。1番や2番にも関係しますが、そういった方々への感謝の気持ちを大切に、明るい笑顔で挨拶をしつかりと行える軽音楽部員、高校生であって欲しいと考えています。

また、本校を含め、私がこれまで生徒たちを見てきた中での話ですが、どうしても「軽音楽部（部活動）」だけを頑張つて、その土台である「学校生活」をおろそかにしてしまっている子が少なくないように感じています。極端な例かもしれませんが、学校には遅刻してくるけれど、部活動にはちゃんと参加する…という感じで、「そんな様子では、生徒自身はもとより、学校から応援されるクラブにはならないよね…」という話をよく生徒にしています。「人数が多い」ということは、当然のことながら、部員間の温度差や取り組む姿勢の違いがあるものですし、まだまだ乗り越えていかなければいけない部分ですが、「学校生活を大切にしない」ということは、特に生徒指導の中で伝えていることです。

●貴校の軽音楽部を言葉で表すと、どんな部活動ですか…

中川：他者への礼儀や挨拶をしつかりと行つた上で、「（ライブは）自由にやりなさい」と伝えています。基本となる学校生活を大切にしながら、音楽へ真剣に向き合うクラブ活動を目指して、これから邁進していきます。

インタビュー／文・三谷暢之



合わせて、81名です。今年は1年生の部員が多く、50名以上が在籍しています。バンドは26バンドが活動しています。校内で二番部員数の多いクラブです（笑）。

外部コーチではないのですが、ご厚意でバンドの演奏を見てくださったり、技術指導をしてくださる非常勤講師の先生がいっぱいいます。ミュージシャン活動もされている先生で、授業のある日に部活動にも顔を出してくださっています。学校からのクラブ活動費としては、部員数や年度にもよりますが、年間約10万円です。本校は3学期制なので、部費は学期ごとに2000円〜年間6000円を徴収しています。

●活動内容や年間を通した行事は…

中川：平日は毎日練習しています。土曜日は隔週が活動日で、例えば、校内ライブを土曜日に開いたり、練習日に充てたりするなど、毎週ではないですが、月2回くらいのペースで土曜日活動しています。他にも様々な大会にエントリーし

たり、技術講習会や合同ライブなど、様々なイベントへ積極的に参加させていただいています。赴任し始めてから、どんどん手探りで新しいことを始めていったので、まだまだこれからではあるのですが、どんどん外へ出ていきたいと考えています。

年間の行事予定ですが、毎年4月に新入生歓迎ライブを行っているほか、6月頃に1年生を対象にした「シャッフルライブ」を開催しています。これはバンドメンバーを「くじ引き」で決めて、演奏を披露する取り組みで、この時に組んだシャッフルバンドで活動を続けていけるならそのまま、新たにバンドを組み直すなら、部員同士で相談してもらい、9月の文化祭からは、そのバンドでの活動をスタートさせる…というのを実施しています。

他にも、7月には2・3年生が主体となるライブを、9月には文化祭のライブ、10月には本校でオープンスクールがあるのですが、そこでも中学生に向けたライブを披露しています。同じく10月にはハロウィンライブ、12月にはクリスマスラ

地元にも密着した合同演奏会 を目指して

三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

サトヤマカイギとは、地域の持続性をテーマに、その地域が抱える課題や地域ならではの価値を様々な立場や職業の人々が集まり、一緒に考える場を創出することで、地域の発展や新たな魅力づくりを目指す取り組みです。一般社団法人サトヤマカイギが主催しており、「つなぐ」がコンセプトに掲げられています。

当協会では、次世代を担う若者（高校生）と地元（白峰）の人々を「つなぐ」という観点から「軽音合同演奏会」を企画。2年目となる今回は、昨年度から1日追加して、4日間の開催となりました。

今回は、いろいろと計画していたアクティビティがあつたのですが、新型コロナウイルスの蔓延を受け、直前に参加校の出演辞退の連絡があつたのが残念でなりません。そんな中、昨年度も参加した3校（金沢学院大学附属高校・石川県立内灘高校・石川県立津幡高校）に集まっていたいただき

更なる事態となりました。とはいえ、地元である白峰の方々の応援がありがたく、ポスターをお店に貼っていただいたり、参加するだけでなく、一緒に盛り上がりたかったのが、たいへん嬉しく感じました。

昨年度の開催実績があるので、地元にも密着した感覚が湧いており、多大なるご協力をいただき、また、期待も寄せていただいていた。部活動としての軽音楽部においては、学校内での行事から校外へと飛び出し、お客様を楽しませるという「エンターテイメント」の一端を感じることができたのではないかと思います。

合同演奏会の朝は早いですが（笑）。9時15分に金沢駅に集合し、観光バスに乗車すると、地元から2名の若者が参加し、バスが白峰に着くまでの道中、白峰の生活や文化などを説明してくれました。方言の紹介もあり、興味深く話を聞いていると、あつという間に白峰に到着です。

はじめに「白山ろく民俗資料館」を訪ね、展示物やビデオを見ながら、白峰の生活や歴史を学びました。資料館の外には、白山麓に住んでいた人々の生活を再現する野外展示施設があり、昔の家屋がそのまま移築し、展示してありました。

資料館の見学が終わると、再びバスに乗り、次は林業体験の作業場まで移動します。林業体験では、昨年度に引き続き、白峰産業の尾田さんから「なぜ木を切るのか？」ということの説明を聞き、ただ木を切るのではなく、未来のために苗を植えていること。伐採には、木の生育を助けるための「間伐」と、大部分を伐採する「皆伐」があることを学びました。

説明を聞いた後は伐採見学です。20メートルはあろうかという杉の木をチェーンソーを使って、ほんの数分のうちに切り倒します。バキバキと音を立てながら大木が倒れる様は大迫力で、伐採後には歓声と拍手が起きました。続いて、演奏会場となる林西寺に移動します。

峰のこと、白山にまつわる下山仏の講話を聞きました。昼食後は、地元の若者による解説を聞きながら白峰地区を回る「散策」と、白峰のお年寄りが藁を使って巧みに縄を作る「藁縄づくり教室」の二手に分かれ、体験しました。

それぞれの体験が終わると、いよいよ「軽音合同演奏会」の開催です。今夏は昨年度に引き続き、地元の民謡保存会の方々だけでなく、地元の小学生の踊りを交えたり、金沢学院大学附属高校から和太鼓部も出演するなど、各地から白峰を訪れた高校生と地元の方々が一体となり、音楽を通じて、つながることができました。

そんな白峰での「白山サトヤマカイギ奉納祭／軽音合同演奏会」ですが、来夏の開催が決定しました。詳細は後日発表となりますが、ぜひ各地の高等学校の軽音楽系部活動においては、地元と密着した新しい合同演奏会を体験して欲しいと考えています。世代や地域を超えた、芸術文化の一端を担う軽音楽部の活動の可能性を感じてください。



▲行動寺の本堂をお借りして演奏会を開催。白峰の方々に楽しんでいただきました



▲林業体験では、林業の仕事や間伐・皆伐の大切さ、将来への苗植えを学びました



▲白峰までのバスの道中は行動寺の永吉さんがガイド



▲白山ろく民俗資料館には野外展示家屋もありました



▲展示物や映像で白峰の生活様式や歴史を学びました



▲地元の方々に協力いただき、白峰の街並みを散策



▲藁縄づくりでは寿会の方々にご指導いただきました



▲加藤住職の講話の後は白山の山々を見ながらの昼食



▲和太鼓部（金沢学院大学附属高校）の迫力ある演奏



▲今夏も遊邦会／桑島民謡保存会の方々が演奏を披露



▲白峰民謡保存会の演奏に合わせ、踊りを楽しまます



▲白峰小学校に通う子どもたちも踊りを披露しました



▲演奏会終了後、ステージで集合写真を撮影しました



▲参加校（金沢学院大学附属・内灘・津幡）記念撮影

音や電気、自然科学について触れる小中学生の夏休みの体験学習として…

音楽の基本である『音』を学ぶ「音学教室」を開催

理系や文系の枠を横断して学び、問題を見つける力や解決する力を育む学習目標として「STEAM教育」が掲げられています。が、「A=ART」が示すとおり、部活動としての軽音楽部に携わる我々として、単純に「音楽は楽しいよね」だけで済ませるのは、もったいないと言えます。そこで、音楽から始まる「電気」や「音響」、「自然科学」まで広がる側面を体験してもらおうべく、音楽による地域の活性化を目指す舞鶴市と協力し、市内の小中学生を対象にした、夏休みの探求課題としての「音」を「学」ぶ…音学教室を開催しました。

はじめに、「音とは何か？」の解説から始めて、「空気の振動である」というところから耳の構造や鼓膜の仕組みを紹介しました。続いて、骨伝導の話をし、録音した声が他人は「自分の声」と主張するけれど、本人には「自分の声」に聴こえない現象を説明したところ、集まった小中学生よりも、付き添いの保護者の方々が大きく頷き、納得されていました。

次に、見えない音を理解してもらうため、はじめに「音をみる」という実験をしました。ドラムフロアタムをステージ前方に設置し、打面にソフトパイプを

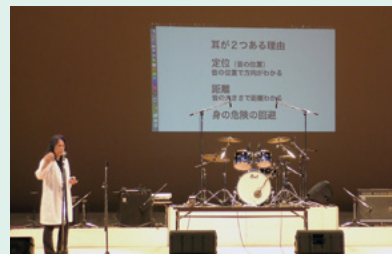
敷き詰め、叩くと、それらが跳ね上がることを確認。スティックでフロアタムを強く叩くと、跳ね上がりが高く、弱く叩くと、小さく跳ねる様子を体験しました。続いて、「音に触れる」という実験では、モニタースピーカーから音を出して、スピーカーのコーン紙を手で触れてみました。普段はグリルがあるので、実際にスピーカーのコーン紙に触れることはできませんが、今回は特別に優しく触れてもらいました。音楽に合わせて、コーン紙が揺れる様子を見ることができ、参加した子どもたちは驚いた様子でした。

第3部は「音の3要素」の解説です。音には「音量」と「音程」と「音色」があります。音量の話は、前述のフロアタムを叩くことで半分程度は理解したはずなので、ここでは、音程の話をしました。長さの異なるパイプを叩いて、それぞれで音程が異なることを体験したほか、3番目の「音色」については、人の声や楽器の音が違うように、物によって「固有の音色」があることを説明しました。

講義は「物理」から「電気」の話に変わります。マイクの「指向性」に関する話やミキサーのこと、そして、ミキサー



▲音楽による地域活性化を目指す舞鶴市と協力し、市内の小中学生を対象にした夏休みの探求課題としての「音」を「学」ぶ…音学教室を開催



▶電気に関する体験コーナーでは、マイクの原理を解説し、ミキサーに内蔵されているエフェクトを使用した音質の変化を一緒に楽しみました



に内蔵されている「エフェクト」を使用して、マイクの声を様々な音質に加工してみました。最初は「パン」についてです。電車が通過する音を右から左、または左から右に再生し、音がどこにいいのか、という「音の定位」を体験しました。その際、両耳を塞いでみたり（両耳で聴いてみたり）、片耳だけで聴いてみるなど、モノラルとステレオの違いも解説しました。

最後は、電気に関する体験学習です。マイクやスピーカーの原理を解説した上で、ミキサーに内蔵されているエフェクトを使用して「やまびこ」を再現してみ

文・三谷佳之

生徒指導を考える

生徒自身が考えて行動するリーダーシップ論

専門性に不安のある先生の指導法（第2回）

部活動の内容に詳しくないので指導がしにくい、と感じたことはありませんか？しかし、部活動の目的や先生の専門性を考えると、活動内容に関する専門性は必須ではありません。今回は、「経営の神様」の例を参考に、指導法について考えます。

第1回では、ティーチング&コーチングとSL理論を中心に、生徒の成熟度や事象によって指導のスタイルを変えることの重要性を学術的な観点を交えながら学びました。第2回と第3回では、具体的なケースを取り上げます。第2回は部活動の内容に詳しくない先生の指導について考えます。

部活動の位置付けは？先生の専門は？

先生が専門性に自信がない場合、第1回のSL理論でいうところの教示型や説得型のようなティーチングが必要な領域での対応に不安を感じることがあるかもしれません。しかし、そこで思い出しただきたいのは、部活動の位置付けです。技術を向上させることも大切ですが、部活動はプロを育成するための場ではなく、

生徒の心身の成長を促進させるための場であるということです。そもそも先生は、担当する部活動の内容についてのプロではなく、教育のプロです。もちろん、指導の幅を広げるために、部活動内容についての専門性を高めて、ティーチングの領域まで対応できるように努力することも大切でしょう。しかし、すべての領域を先生が1人で直接対応する必要はありませんし、それができる先生は少ないと思われる。直接的にスキル面の指導もできる方がベターですが、先生にとってより大事なことは、生徒の成長を支援することです。

もし、経営の神様が部活動を指導したら

それでは、どのようにすれば、生徒を成長させることができるのでしょうか。ここで、松下電器（現パナソニック）の創業者である松下幸之助の例を参考に考えてみましょう。松下幸之助は、たとえ社員に経験や実績がなかったとしても、潜在能力に期待して仕事を任せていたという話を聞かれました。病弱だったために任せざるを得なかったという事情もあったようですが、社員を信頼して権限

を与えることで、自主的に考えて行動する環境を作り出していました。権限を任された社員たちは大いに奮起し、会社の業績にも大きく貢献したようです。

上記は、経営やリーダーシップの話として有名ですが、この逸話を部活動での生徒の成長支援にあてはめると、SL理論の教示型や説得型のようなティーチングが必要に見える部分は、生徒に任せられるのではないのでしょうか。今は、部活動に活用できそうな動画をはじめとした情報がネット上に転がっている便利な時代なので、生徒にリサーチをさせたり、経験豊富な上級生に後輩の指導を依頼したり、部長に部活動の運営を部分的に任せることもできるでしょう。権限委譲のようなことを実施することで、生徒が自ら考えて主体的に行動するようになることから、成長も期待できそうです。これは、コーチングにシフトした状態と言えますが、先生の適切なサポートにより、効果的な取り組みとなるでしょう。

ここまで読まれても、専門性がないことが不安で、特定の技術の指導が必要になった場合はどうしよう、と心配される先生もいらっしゃるかもしれません。しかし、そのようなケースにおいて、先生自身が技術指導するのは1つの解決手段ではありませんが、先述の通り、先生が直接対応する必要はありません。経験豊富なOB、地域の軽音サークルのメンバー、プロのミュージシャン等を招いて指導してもらうなど、外部のリソースを活用する方が、生徒にとっても刺激になるでしょう。つまり、自身の専門性を高める以外

にも、方法はいくつでもある、ということです。自身の専門性に不安を感じるよりも、自身の解決手段の少なさを課題に感じる方が、状況は好転するのではないのでしょうか。

任せて任せず

逆に、専門性に自信がないことから、部活動の練習等にはほとんど関与せず生徒たちに丸投げ、という先生もいらっしゃるかもしれません。しかし、たとえ望んでその部活動の担当になったのではなかったとしても、教育のプロとしての努力をするべきでしょう。もし、これまで丸投げでもなんとかやってきたのだとしたら、先生が上記のような工夫をしながら前向きに加わることで、生徒の心身の成長の促進を加速させられる可能性が残されているということです。

最後に補足ですが、先ほど例に挙げた松下幸之助は、「任せて任せず」という言葉も残しています。要所要所で報告を求め、状況次第では病床からも指導や助言を与えていました。任せるけれども、任せっぱなしではなく、目を行き届かせていた、という点が重要です。松下幸之助のスタイルを取り入れる場合は、「任せて任せず」も必ずセットで実践するようになさってください。

来月の第3回は、部活動の内容に精通した先生の指導について考えてみたいと思います。

文・大田栄司

軽音楽部にもマナー・ジェネレーションの発想を：③機材・環境のコントロール

軽音楽部という部活動は、現在最も人気のある部活動の一つです。しかし、その歴史はまだ浅く、運営や練習方法、機材や環境整備などのノウハウも少ないため、多くの顧問の先生方が悩まれています。抱えている問題は各校で違うと思いますが、部の運営に必要な部員、機材、活動のマナー・ジェネレーションについて4回にわたって考察してきました。第3回目となる今回は、部のソフトウエアである、機材や備品、練習環境などについて考えていきたいと思います。

機材の購入

ポピュラーミュージックはたくさん楽器や機材を使います。そして、そのほとんどが電気・電子楽器であり、音を出すための周辺機器や備品がさらに必要になります。きちんと機材を揃えたい、増やしたい、買い替えたいと思っても、生徒会からの分配金ではなかなか賄いきれる分量ではありません。

解決策としては、部費の徴収を始めた増額する、知り合いや保護者から提供

してもらう、顧問が自分の機材を寄付する、近くの学校と余っているものを交換し合う…などが多いようです。

近年では、音楽機材専門の大手ネットショップや楽器店のネット通販もあり、製品の詳細も事前に把握できるため購入は比較的楽になりました。また、オークションサイトやフリマアプリ、地元で不要なものをやり取りするサイトやネット掲示板などを活用すれば、費用を抑えられるかもしれません。

しかし、機材それぞれにランクや互換性、仕様の違いがあり、具体的にどの機種を選べば良いかの判断は簡単ではありません。ポイントは大勢が共用で長く使用する「備品」として最適かの見極めです。例えば、より多くの場所で使われているスタンダードな機材は、他校に遠征したり大会に出場した時などで扱いに戸惑うことが少なくなります。また、他の電化製品同様、音楽機材もデジタル化、小型化、高性能化、低価格化が進んでいます。ステレオタイプなイメージにとらわれず、現在と未来を見据えた機材を選

ぶという考え方がお勧めです。すべての機材について詳細にお伝えするのは難しいので、お困りのことがあれば当協会までお気軽にご相談ください。

「マイ楽器」の線引き

機材に関して意外と重要なのは、どこまでを「マイ楽器」とするかです。マイ楽器とは、部員が持参するべきものという意味です。例えば、ギターリストならギター本体は持参、ギターアンプは学校の備品となっていると思います。

では、シールドケーブルはどうでしょう。ギターリストはほとんど自分で持つてくると思いますが、キーボードイストは学校のものを使っていることが多いのではないのでしょうか。一昔前のキーボードは高価で重く、ドラムセットと同じように学校の備品であることが一般的だったため、周辺機材であるケーブルも学校の備品として揃えておくことが通例でした。しかし、音作りの面からもマイキーボードを持参する部員が多くなってきた

複数必要になります。部員が増えて、バンド数が増えれば増えるほど、練習場所の確保に困ってしまうというジレンマに陥っていきます。また、音の響き方に関する問題は、音楽室や視聴覚室などを使用する場合と、普通教室を使用する場合とでも違いは出てくるでしょう。

音量問題は、中には「騒音問題」と揶揄されるほど、校内では煙たがられてしまっている学校も多いのではないのでしょうか。しかし、クラシック音

楽や吹奏楽は人数を増やすことで音量を稼ぎましたが、ポピュラーミュージックは電気で音を増幅します。逆説的に言えば、ドラム以外の楽器は音量をある程度抑えることも可能です。すなわち、音量問題対策は打楽器であるドラムと、肉声を駆使しているボーカルへの対応がほぼすべてです。ドラムは、本来のサウンドを失うほどヘッドにガムテープをがっちり貼ってしまいうことも解決策の一つです。また、セツトの下にマットを敷くと床のキズ防止

や滑り止めになるだけではなく、防振・防音にもなります。バスドラムには毛布などを詰めたり、フロントヘッドを外してしまうことも有効です。近年では、ヘッドに置いたりシンバルに貼る練習用消音ツールも発売されています。

ボーカリストには、自分の歌（声）を返すモニタースピーカーを用意することで、PAスピーカーの出力を抑えることができ、さらにはピッチの安定、大声を出して喉を枯らしてしまうことの予防につながります。PAスピーカーをボーカル用モニターと考えるのも良いですが、キーボードやアコースティックギターなどと一緒に出す場合はバランスが取りにくくなります。バンド練習の総音量基準は、きちんとボーカルが聴こえるかどうかです。練習を見回って適切な音量で練習しているかをチェックすることも、マナー・ジェネレーションのうちかもしれません。

機材の管理、保全

部活動で使用する機材や備品は、当然ながら長く使いたいものです。そのためには、部員に正しい扱い方や保管方法を行き届かせる必要があります。特に、部活動のたびにドラムセットやアンプなどを倉庫などから運ばなければならない学校では、壁にぶついたり壊したりケガをしないよう、慎重な扱いが望まれます。機材は精密機械も多いため、重いものは台車を使う、必ず2人以上で運ぶ、滑り止めのついた手袋を使用するといった

現在では、ケーブルも持参することが多くなっています。また、たとえキーボードを学校の備品としている場合でも、自分用のケーブルは持参するというルールもおかしいことではありません。

ボーカルマイクについても、昔と状況は変わってきています。街の練習スタジオでもライブ会場でもマイクは常設が一般的な考え方のため、マイク本体やマイクケーブル、マイクスタンドは備品であることが普通です。しかし、コロナ禍以降は衛生面からもマイクを購入するボーカリストが増えていきます。音響システム上の問題から、マイク交換時のオンオフに注意が必要だったり、現状は機種をSHURE（シュア）社のSM58に限定しておくことが推奨されますが、マイクを使う人数の多い学校では検討しても良い案件だと思っています。

他にも、ドラムのペダルやスnea、ギターのエフェクターなども、マイ楽器としても良いでしょう。備品購入の費用削減とは関係ありませんが、サウンドやプレイへのこだわり、どこでも同じ条件で演奏できる安心感のためには有効です。入部したばかりの新生生にも徐々にマイ楽器に対する興味を持たせることも、機材コントロールの一環です。

練習環境の整備

軽音楽部は、いくつかのバンドに分かれて活動するため、練習場所が

ルール作りも有効です。

前述のように、軽音楽部で使用する機材は電気・電子機器がほとんどです。通電のオンオフの順序間違いや、溜まったホコリが故障の原因になることもあります。また、保管状況は様々だと思いますが、木製や鉄製の部品も多いため、湿度と温度に注意して、できるだけ換気をよくすることが理想です。また、基本的に置き勉ならぬ部員の「置き楽器」は、責任問題も含めて避けた方が賢明でしょう。

部には、頑張って調達した機材や過去に先輩たちが購入した機材もあれば、現部員の代で購入したものもあるかもしれません。どちらにせよ、それらはすべて未来の部員へ引き継いでいくものだという意識が大切です。自分たちが使っていた機材を、卒業後も後輩が大切に使用していると知ったらきつと感動すると思います。部の備品は部の財産です。道具を大切にする気持ちも同時に部活動で学んでいってもらいたいと思います。

とはいえ、どんなに大事に使っていても機械はいつか壊れます。調子が悪くなったり壊れてしまったら修理が必要です。予備の機材がない場合は練習に差し支えてしまう可能性もあります。修理に出すべきか廃棄するべきかの判断や、代用品をどうするのかといった問題のクリアは簡単ではありませんが、悩んでいるうちに使用しない機材が部室や倉庫に溜まっていく…なんてことも少なくありません。学校との相談が必要な場合もあると思いますが、速やかな処置を検討しましょう。

文・辻 伸介



アンサンブルが良くなる指導方法

⑥ イメージを共有して表現する

6回に渡ってバンドアンサンブル指導のヒントを解説してきましたが、最終回の今回は、バンド演奏に欠かせない「表現」に関するについてお話ししていこうと思います。なるべく専門的になりすぎないように説明していきたいと思いますので、日々の部活動指導の参考にしてください。

1. ドラマ、メッセージの共有

バンド演奏へのアドバイスは、チームとして何かを表現できていたかが主眼点です。アンサンブルとは、言わば複数人で行うフォーメーションプレイのことなので、演奏にミスがなかったかだけではなく、メンバー同士の意思疎通と連携の有無もポイントです。それには、技術面以上に感情面が大切になってきます。

ポピュラーミュージックは、歌詞に大きなウェイトがあります。良い演奏は、歌詞の内容や感情に合わせてドラマチックに展開していきます。専門的にはアレンジやプレイにリスナーが気づかないぐらいの職人技が忍ばせてあるのですが、高校軽音楽部レベルの技術と経験でできることは、「ダイナミクス」とその「表現手法」の共有です。

ダイナミクスとは、全体を通しての音量加減のことです。ダイナミクスが歌詞の意味やメッセージとズレているとドラマは生まれません。メンバー同士で話し合ってみると、ここはこのぐらい盛り上がりたいたいという気持ちに差があることも珍しくありません。歌詞の解釈と共有は、メンバー間でディスカッションしながら理解を深める時間を作っても良いかもしれません。

そして最も重要なのは、共有したドラマや世界観、感情の動きなどをどのように具現化するかです。音量、音色、タッチなどで表現は変わります。一編の映画を作るように、何度も確認しながら丁寧に仕上げる意識が必要で。

2. 視覚的なイメージの共有

歌詞の意味や楽曲の世界観をメンバー間で共有するには、視覚的なイメージを話し合うことが有効です。言葉だけではどんなに話し合ってもそれぞれの頭に浮かんでいるイメージが違っていることがよくあります。

具体的に、場所、時間帯、季節などから、登場人物の感情、表情、行動を映像的に

話し合うと、よりイメージを共有することが出来ます。ミュージックビデオを自分たちで撮るようなつもりで、このセクションはこんなシーンで…と、意見を交わしていくと良いでしょう。もちろん、そんなイメージや感情を演奏で表現することは簡単ではありませんが、少しでもイメージの方向性が共有できていれば、次第に出てくる音も1つになっていきます。

また、実際にライブを行う時のステージで、どんな照明が良いかをイントロからエンディングまでメンバー間で話し合ってみても、同じような効果があります。

3. ステージ表現の共有

前項という視覚的イメージは、バンド内の気持ち（メンタル）を統一させるための方法です。一方で、観客にどういった視覚的な効果を見せるのかという、いわゆる「ステージング」をメンバー間で話し合ったり練習することも、ひいてはアンサンブルを良くしていくことにつながります。

何も、派手な動きを考えましようとい



Event Calender

お問い合わせ：info@keionkyo.org TEL：045-913-0901

軽音楽部セミナー

10月5日（土）	会場：専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー（パート別技術講習会／合同演奏会）
10月5日（土）	会場：大阪音楽大学（GarageBand 講座）
11月16日（土）	会場：専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー（オリジナル曲制作講座）
12月21日（土）	会場：専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー（オリジナル曲アレンジ講座）

軽音合同演奏会

11月9日（土）・10日（日）	会場：昭和音楽大学
12月7日（土）	会場：専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー（第15回 愛知県高等学校軽音楽大会／バンドクリニック）

その他

第2回 全国高等学校軽音楽部 オリジナルソング・グランプリ 締切：10/31

12月5日（木）6日（金）	全国高等学校文化連盟／研究発表大会（開催地：三重県）
12月25日（水）	第15回 愛知県高等学校軽音楽大会

配布校リスト

全国の高等学校2,040校の軽音楽系部活動の顧問あてに無料配布しています

現在の配布校リストはQRコードからご覧いただけます

次号予告

※表紙はサンプルです

次号は

9月25日（水）発行

軽音楽部

「作詞」のポイントとヒント

作詞は「まず作ってみる」ことが大切ですが、実際には様々なことを気にかけておく必要があります。作詞をする際に役に立つポイントとヒントをご紹介します。

エレキギターの音作りに関する素朴な疑問 10

エレキギターの音作りに大切な音の三要素は「音量」「音高（音の高さ）」「音色」です。ここでは音作りに関する疑問にお答えします。

今月の新着コンテンツ

右のQRコードから記事を読むことができます

未常識

ファーストペンギンは鶏口牛後を心に誓う
三谷佳之 著

未常識とは未だ常識になっていないこと。世間の常識になる前は常識ハズレなこととして見過ごされるが、視点や考え方を変えたと前代未聞、前人未到、空前絶後な道が開ける。考え方を考える100選。

価格：1,500円（税別）
電子書籍：1,200円（税別）

Amazonで発売中！

成功と失敗

考え方の分岐点
三谷佳之 著

成功と失敗。いろいろな岐路に立った際、どの考え方を選択するかで結果は大きく別れます。成功と失敗を分けるほんの少しの考え方の違いを対比で紹介する珠玉の100選。

価格：1,500円（税別）
電子書籍：1,200円（税別）

Amazonで発売中！

株式会社ミュージックネットワーク 未常識プロジェクト（自己啓発事業部）

エンタメ&クリエイティブの専門学校



VISUAL ARTS

東京 / 名古屋 / 大阪 / 福岡

ビジュアルアーツ・アカデミー

ACADEMY

Akademeia 21st Century



ミュージシャン
声優・俳優・タレント
ダンス・ダンスボーカル
ネットタレント・インフルエンサー
映像クリエイター (3DCG・VFX)
テレビ放送・映画スタッフ
コンサート・舞台スタッフ
レコーディングエンジニア
サウンドクリエイター
映像音響 (MAエンジニア)
写真・デザイン
マスコミ出版
芸能マネージャー
特殊メイク

※地区によって教育分野が異なります

大学も専門学校も超える新たな学びの場



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century

専門学校 東京ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校 東京ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 大阪ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 ビジュアルアーツ専門学校より校名変更)

専門学校 名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 名古屋ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 福岡ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校 九州ビジュアルアーツより校名変更)



歌や楽器を録音し、 作品にする仕事です

音楽やエンターテインメントに関する職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はレコーディングにまつわる仕事について、専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー／音楽総合学科レコーディングコースの荒井先生に伺いました。

ー レコーディングにまつわる仕事全般について教えてください

荒井：簡単に紹介すると、音楽の分野であれば、楽器を録音するのが主な仕事です。いろいろなジャンルの音楽があるのはもちろん、録音する楽器の数や演奏者の人数などは楽曲によって異なります。また、全般に録音する行為を「レコーディング」と呼んでいるので、例えば、落語の収録や国語の教科書の音声CDの録音なども業務の1つに当たります。

音楽の例に戻ると、バンドやアーティストからレコーディングの依頼をいただき、「こんな感じのドラムのサウンドにしたい」「ギターの音をこんな風に録りたい」といったリクエストに応えたり、「そんな感じのイメージなら、こんなサウンドはどう？」という提案をしたりするのが、レコーディング・エンジニアの主な役割です。

また、ライブを収録したCDやDVDの録音は、すべてレコーディング・エンジニアが担当しています。よくライブの録音は音響(PA)さんがやっていると思われがちですが、マイクや録音機材の選定や設置から本番の収録や編集まで、すべてレコーディング・エンジニアの仕事です。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか？高校時代にやっておいた方がよいことも教えてください

荒井：特にレコーディングに関する知識やスキルは必要ありませんが、強いて言えば、いろいろな音楽用語が飛び交うことになるので、それについて勉強したり、簡単に理解しておくといかもかもしれません。

また、いろいろな音楽…特に洋楽を高校時代から聴いておくとい思います。理由は、日本の音楽は洋楽を参考にしている部分が多々あるからです。それに、「このギターのサウンドは

エリック・クラプトンみたいにして欲しい」「ヴァン・ヘイレンみたいな歪んだ音が良い」「クイーンのブライアン・メイ風のサウンドにしたい」といったリクエストを受けた際に、これらのギタリストのサウンドや特徴を知らないと要望に応えることができないので、メジャーな洋楽曲は一通りのものを聴いておくのがオススメです。

ー この仕事の楽しいところを教えてください

荒井：これは、恐らくレコーディングの世界をご存知ない方々には想像がつかないと思うのですが、ある楽曲をレコーディングする場合、担当するエンジニアはメロディしか知らないんです。歌詞はありません。その状態からアレンジを施し、キーを決めて、ドラムやベース、ギターといったベーシックな楽器から録音します。ドラムやベースを録り終えたら、「じゃあ、どんなギターを入れていく?」「これは少し違うから、こんなのはどう?」「ソロはどう? サックスでやってみない?」といった試行錯誤をスタジオで実践してみるんです。このように、レコーディングの現場では、毎回違うことが行われます。我々のようなエンジニアも「何かアイデアはありませんか?」「ここは、どう思います?」といった意見や感想が求められるなど、いろいろなやりとりや作業を通じて、1つの楽曲が完成する過程に携われるのが楽しいところだと思います。何もなかったところから創造物を作り上げ、組み立てていくのが一番の醍醐味ですね。

ー この仕事の大変なところを教えてください

荒井：自分の名前がCDやDVDなどの作品にクレジットとして載ることでしょうか…。エンジニアのアシスタント時代から載ることが多いので、最初の頃はスタッフ欄のところに名前が載っていると嬉しく感じると思うのですが、や

はり名前が載るというのは、その作品に対する責任感を持たないといけません。そこが大変に感じる部分であり、シビアな面だと思います。

ー この仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか

荒井：一番は「コミュニケーション能力」だと思います。何を録音し、作品を仕上げるにも、まずはアーティストと会話をし、相手の要望を聞き出したり、完成図を共有しないといけないので、意思疎通を図る能力が大切です。

2つ目は「チャレンジ精神」です。どんなことにも興味を持ち、例えば、ドラムを録音する場合、「いつもだったら、こうやるけれど、こうしたらどうだろう?」という研究心や好奇心旺盛な気持ちが不可欠だと思います。レコーディングの世界に「当たり前」はありません。録音して、それが「良いね!」と評価されれば良いので、どんなプロセスを踏んでも構わないんです。それを自分で研究し、自分なりの手法を見出せる人が、この仕事に向いていると思います。

3つ目は「諦めない気持ち」が挙げられます。チャレンジ精神にも通じますが、「今回はこうなったけれど、次はこうしてみよう!」という風に挑戦を続け、試行錯誤を繰り返しながら、さらに良いものを求める姿勢が大切です。



▲ DAWソフトを使用して、実習を行っています